



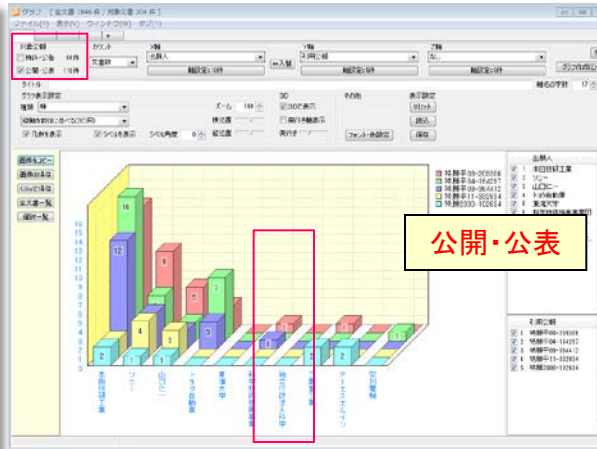
ぱっとマイニングJP2013 引用公報を使った活用例

引用公報の中から重要特許を見つけ、
重要特許を引用して出願している各企業の
知財戦略を調査する。

株式会社ワイズシステム

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る－1

順位	出現数	△文書	データ
1	100	59	特願平09-209306/特開平11-
2	99	56	特願平04-164297/特開平05-
3	73	38	特願平09-364412/特開平10-
4	50	30	特願平01-324217/特開平03-
5	55	29	特願2000-102634
6	56	28	特願平11-332934/特開2001-
7	46	26	特願2001-133621/特開2002-
8	44	25	特願2002-542574/PCT/JP20C

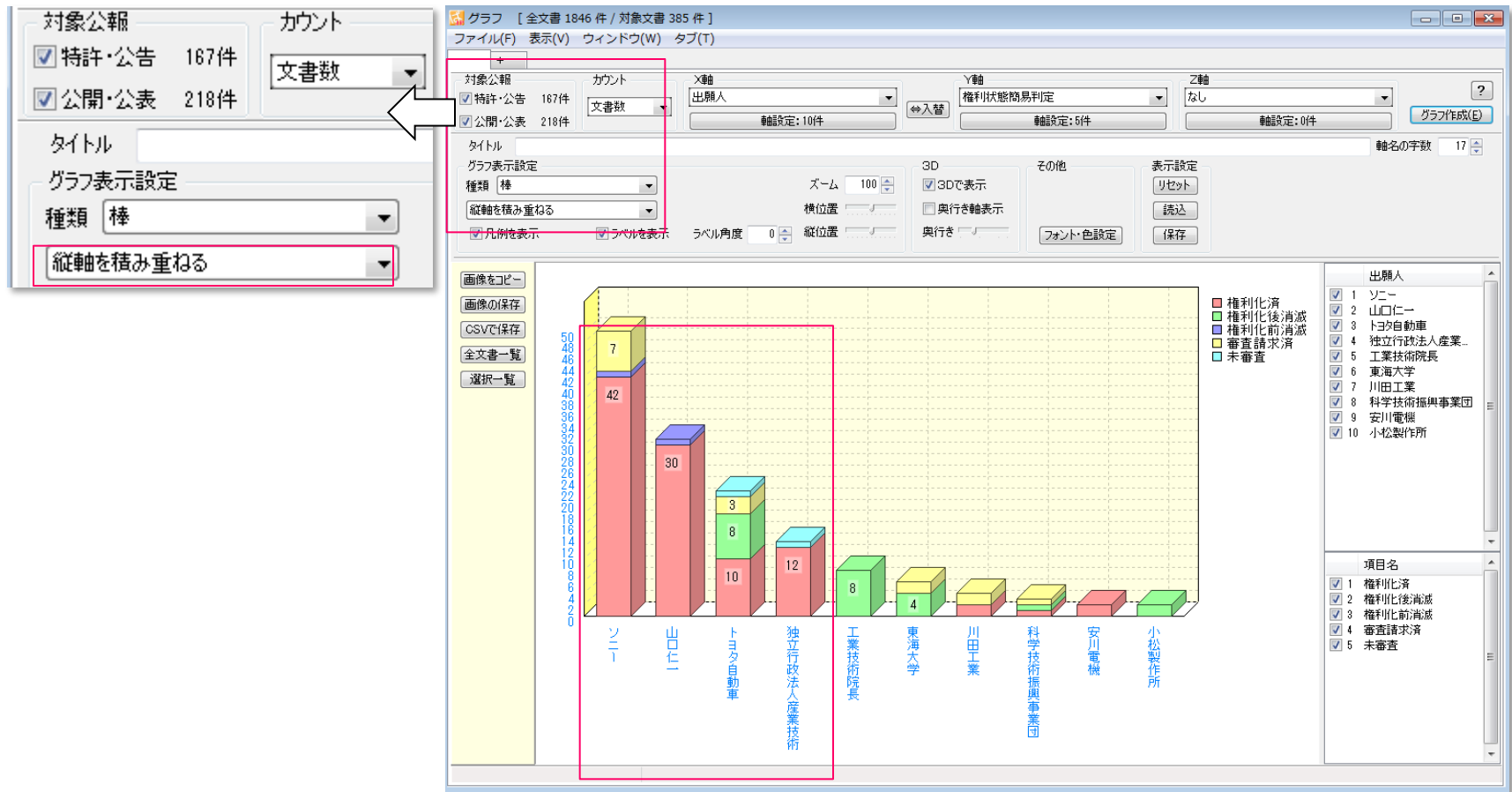


同じ公報を引用していても、出願人によって権利化率が異なる。
・・・引用公報を効果的に活用できている出願人がある、ということ。
どのように有効活用しているか、公報を見て参考にしたい

【1－対象公報で切り分ける】

1. 「総合ランキング」⇒「引用公報タブ」で、よく引用されている公報番号を選択して、チェックを入れる。
2. 「チェック状態を抽出条件に反映させる」に、チェックを入れる。
3. 「引用公報タブ」でチェックを入れた公報を引用している公報だけが抽出される。
4. 「グラフ」に移動し、X軸：出願人 Y軸：引用公報 対象公報：公開・公表 でグラフを作成する。
5. 対象公報：特許・公告 に変更して、グラフを作成する。
6. 2つのグラフを見比べる。同じ公報を引用していても、出願人によって権利化状態が異なることがわかる。 >>次ページへ

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る-2



【2-権利化状態で見ると】

7. X軸:出願人 Y軸:権利化状態簡易判定 対象公報:公開・公表 特許・公告 でグラフを作成する。
8. グラフ表示設定の 種類を棒グラフにし、「縦軸を積み上げる」にして、「グラフ作成」ボタンをクリックする。
9. 「権利化済み」の赤色の比率が高い出願人ほど、引用公報(先行特許)を有効に活用していると言える。

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る－3

The screenshot shows the '引用公報' (Cited Publications) tab in a patent analysis software. The main window displays a list of search results with columns for rank, frequency, document count, and data. A red box highlights the 4th result, which has a frequency of 19. An arrow points from this result to a detailed view window on the right.

The detailed view window shows the following table:

順位	出現数	文書数	データ
4	4	19	7 特願平11-3
5	5	18	9 特願平09-2
6	6	18	8 特願平07-0
7	7	18	8 特願平11-3
8	8	17	7 特願平09-2
9	9	16	6 特願2001-3

The detailed view also shows a list of patent entries with checkboxes for selection. The 8th entry, '本田技研工業株式会社' (Honda R&D Co., Ltd.), is highlighted in blue, corresponding to the 8th row in the table above.

【3－査定種別を用いた方法】

1. 「総合ランキング」⇒「引用公報タブ」で、よく引用されている公報番号に、1つずつチェックを入れる。
2. 「チェック状態を抽出条件に反映させる」に、チェックを入れる。
3. 抽出された公報の出願人名を見て、いろいろな企業が引用しているようなら、引用されている公報は、当該分野において重要なコア特許である可能性が高いと考えられる。
4. 上記の1～3の操作で選んだ、重要な引用公報にチェックを入れ、チェックを入れた公報を引用している公報だけを抽出する。

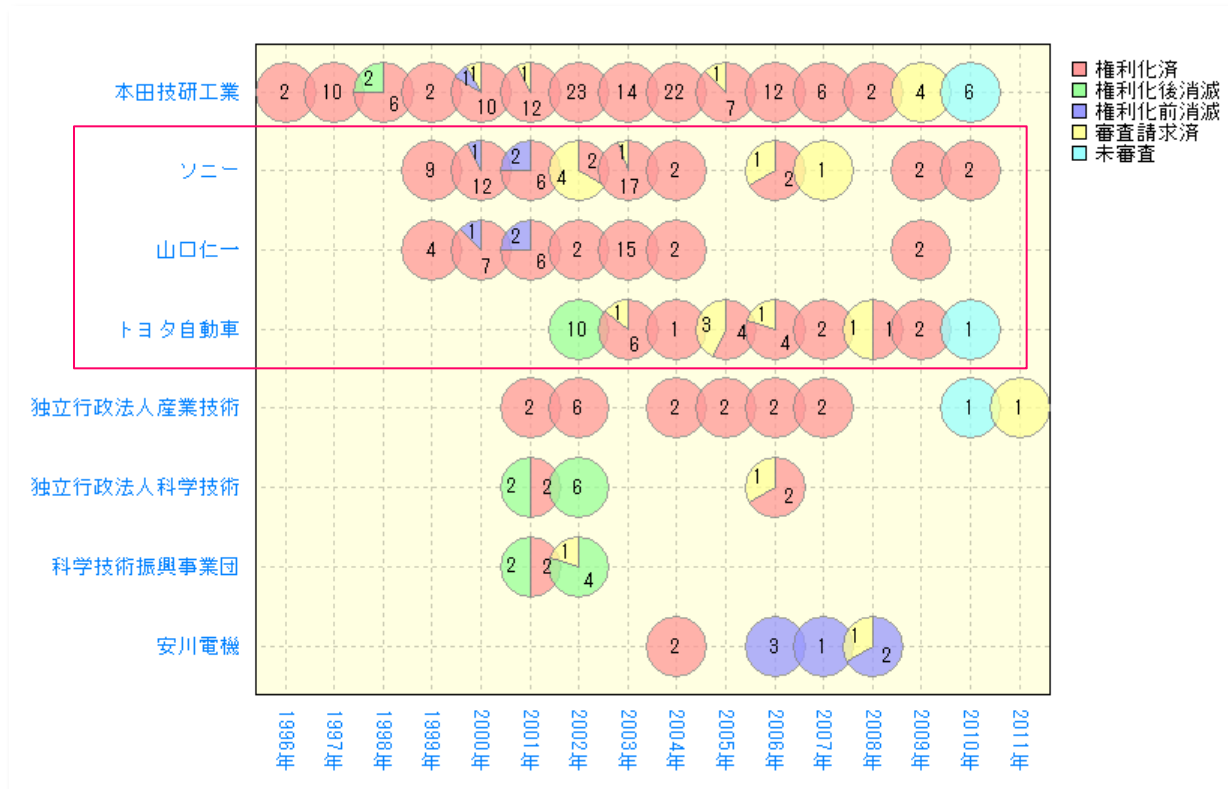
>>次ページへ

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る-3

The screenshot displays a software interface for analyzing patent data. On the left, a bubble chart shows the number of patents (Y-axis) for various applicants (X-axis). The largest bubble, representing 201 patents, belongs to '本田技研工業' (Honda R&D Co., Ltd.). Other applicants include 'ソニー' (Sony), '山口' (Yamaguchi), 'トヨタ自動車' (Toyota), '独立行政法人産業技術' (IPA), '独立行政法人科学技術' (IPEC), '科学技術振興事業団' (JST), '安川電機' (Yaskawa), '東海大学' (Dokai University), and '川田業' (Kawada). A red box highlights the Honda bubble, with an arrow pointing to a detailed document list window on the right. This window shows a table of patent records, with the selected entry '特許009-007603' expanded to show its title '駆動方法、駆動制御装置及びロボット' and applicant 'ソニー株式会社'.

5. 「グラフ」に移動し、X軸:出願人 Y軸:査定種別でグラフを作成する。
6. 上の例では、赤で囲んだ出願人は、引用公報を有効に用いて、出願を権利化していることがわかる。
7. 赤で囲んだ出願人のバブルをクリックし、『グラフ内文書一覧』を表示し、ダブルクリックで『文書ブラウザ』を起動する。
8. 出願内容を見ることで、引用公報を有効に活用した出願の方法を学ぶことができる。

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る－４



【４－バブル円グラフを用いた方法】

1. 「総合ランキング」⇒「引用公報タブ」で、よく引用されている公報番号を選択して、チェックを入れる。
2. 「チェック状態を抽出条件に反映させる」に、チェックを入れる。
3. 「引用公報タブ」でチェックを入れた公報を引用している公報だけが抽出される。
4. 「グラフ」に移動し、X軸:出願年 Y軸:出願人 Z軸:権利状態簡易判定 グラフ種類:バブル円 でグラフを作成する。
5. 出願人別の時系列の権利状態がわかる。上の例では、赤で囲んだ出願人が、引用公報を活用して、近年に権利化を達成していることが分かる。

よく引用されている公報から、他社の知財力を知る－5

オートスコア：特許評価分析

権利の状態・審査請求の状態に応じた加算

公報種別に応じて、以下の中から該当する状態の点数のみ加算

権利化されている公報（公告・特許公報など）	権利化されていない公報（公開公報など）
権利存続中 100	審査請求済み 60
権利抹消済み 80	審査請求済み（拒絶査定） 5
存続状態不明 5	未審査請求（状態不明） 20
※項目【本権利抹消識別】に基づいて判定	未審査請求（取下げ・期限切れ） 5

その他の加算処理

存続期間満了までの残り年数 × 5 【本権利抹消識別】にて抹消の記述がない場合のみ。

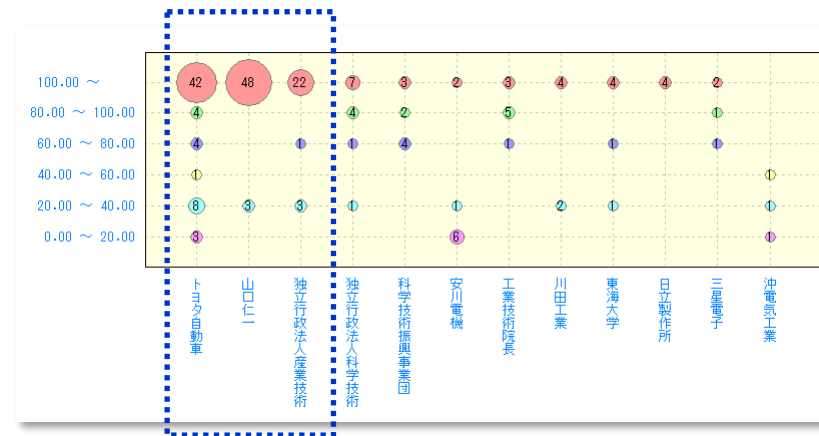
早期審査請求がある場合 10（権利の状態に関わらず、一律で加算）

被引用文献の件数 × 5

引用文献の件数 × 10

請求項の件数 × 10

優先権主張の表記がある場合 10（権利の状態に関わらず、一律で加算）



【5－特許評価分析を用いた例】

1. 「総合ランキング」⇒「引用公報タブ」で、よく引用されている公報番号を選択して、チェックを入れる。
2. 「チェック状態を抽出条件に反映させる」に、チェックを入れる。
3. 「オートスコア」⇒「特許評価分析」を開く。
4. 上図のようなスコア設定にして、「集計実行」ボタンをクリックする。
5. 「グラフ」に移動し、X軸：出願人 Y軸：スコア でグラフを作成する。
6. 右図の例では、青破線で囲んだ出願人が引用公報を有効に用いて、権利を強いものになっていることがわかる。

※ 特許評価分析では、経過情報データを利用して、細かにスコア分けができるため、出願人の様々な傾向をつかむことができる。